

分担研究報告

今後の保健所における母子保健活動の展望について

分担研究者	藤内 修二
	尾崎 米厚
研究協力者	安藤 美里

分担研究報告書

保健所における母子保健活動のあり方に関する研究

これからの保健所の母子保健活動の展望についての意見に関するグループインタビュー

分担研究者	藤内修二	大分県佐伯保健所
	尾崎米厚	国立公衆衛生院疫学部
研究協力者	安藤実里	恵那市保健センター

研究要旨 これからの保健所における母子保健活動のあり方を検討するためにデルファイ法のような位置づけで、公衆衛生院で学ぶ学生を対象にグループインタビューを実施し、今後実施したい母子保健活動について議論してもらった。今後実施したい母子保健活動は現状の活動に影響されていることが多く、郵送調査で明らかになった先駆的事業と類似していた。しかし、最近問題になっているダイオキシン、更年期・不妊への対応、家庭内暴力への介入、PTSD、麻薬・覚醒剤などの新しいテーマも提唱されていた。現状と希望を組み合わせたこれからの活動展望が活動の広がりを持つてくると考えられる。

A. 研究目的

これからの保健所における母子保健活動のあり方を現状で実施されている先駆的事業の分析からとは異なる方法で検討するため、国立公衆衛生院の長期課程で学ぶ全国から派遣されてきた保健婦のグループインタビューを行った。現状にとらわれず、どのような母子保健活動を今後保健所で実施していきたいかを出し合ってもらった。

B. 研究方法

これからの保健所における母子保健活動のありかたを現状活動の中にある先駆的事例から導くのではなく、専門家が今後どのような活動をしたいと思っているのかという話し合いから導き出すために、国立公衆衛生院平成 10 年度専攻課程看護コースの学生（主に都道府県からの派遣保健婦）を中心にグループインタビューを行った。グループインタビューの方法は、KJ法に準じたものであった。すなわち、15 人程度のグループで各自がこれから実施したい保健所での母子保健活動を自由に発想してもらいカードに書き、分類しながら貼り付

けていくというものである。最後に整理されたものを議論して修正し、既にそのような事業が実践されておればその事業についての情報も報告してもらった。

C. 研究結果

障害者が普通に暮らせる環境をつくる（グレーゾーン対策、検診の精度管理、親の仲間づくり療育事業の改善）、子育て支援（外国人母子、事故予防、公園整備、健康と建築、ダイオキシン、育児グループ、育児グループへ参加できない人への支援、父親への対応、保育園との連携、おもちゃライブラリー、地域の老人の活躍の場、虐待予防）、更年期・不妊症・障害婦人等への支援、小児周産期の救急医療体制の整備、夫婦の性・暴力への対応、危機管理（事前対応型、PTSDへの支援）、思春期保健（麻薬・覚醒剤、禁煙教育、中・高校生への育児教育、不登校への対応、連携機関の組織作り、摂食障害）、市町村との協働（事業の共同企画、協働の会議、計画づくりの支援、事業評価の支援、情報支援機能、精度管理機能）、基盤整備（人材交流、調査研究機能、モデル事業開発機能）などについてのアイデアが提出された。

D. 考察

今後実施したい母子保健活動を提案してもらったが、結果的には現状活動に関連した内容が提案された。従って、郵送調査で明らかになった先駆的事業と比較的似通った事業が提案された。一方、現在社会問題となっているダイオキシン、低用量ピル、PTSDに関する提案や先駆的な事業ではあがりにくかった市町村支援、評価、計画づくり支援なども提案されていた。この手法は、デルファイ法にも似ており、実態から導き出される先駆的活動の萌芽と先見性のある専門家の意見を組み合わせればよりよい母子保健活動のあり方を提案できる可能性が示せたと考えられる。

E. 結論

これからの保健所における母子保健活動のあり方を検討するためにデルファイ法のような位置づけで、公衆衛生院で学ぶ学生を対象にグループインタビューを実施し、今後実施したい母子保健活動について議論してもらった。今後実施したい母子保健活動は現状の活動に影響されていることが多く、郵送調査で明らかになった先駆的事業と類似していた。しかし、最近問題になっているダイオキシン、更年期・不妊への対応、家庭内暴力への介入、PTSD、麻薬・覚醒剤などの新しいテーマも提唱されていた。現状と希望を組み合わせたこれからの活動展望が活動の広がりを持つてくると考えられる。

保健所における母子保健活動のあり方に関する グループディスカッション

1. 現在先駆的に行なわれている事業

- ・新潟県：不妊相談……専門的質問、研修機能—大学
一般的質問—保健所
- ・愛媛県：かむかむ教室
- ・愛知県知多保健所、東京都：虐待ネットワーク
- ・静岡県：災害時のミルク・オムツ対策
- ・兵庫県： 〃 インシュリン
- ・ : PTSDへの対策
- ・新潟県：更年期婦人の健康
- ・福岡県：母乳育児（各保健所に助産婦が1人ずついる）
- ・鳥取県：市町村の母子保健関係の会議への出席 母子保健協議会（計画策定の名残や学校保健会への保健所の出席）—鳥取保健所
- ・新潟県：基幹保健所にPTがいる。
- ・福島県：管内の市町村からモデル市町村を選び、母子保健計画の評価の実践として、評価マニュアルづくりを行っており、今後これを管内全体に広める予定。

2. 現状の課題

- ・未熟児サマリー：文書でのやりとりで終わり、顔を合わせてお互いの役割の相互確認まで出来ていない。
- ・障害児を持つ親への育児支援が行われていない。
- ・「子育て支援」は市町村が主体なため、保健所は動きにくい。
- ・トップの方に母子保健は市町村におりたと思われていて、保健所が市町村支援として動かせる予算がない。—事業としてはもう起こしにくい状態
- ・保健所も借り物のスタッフで事業をするしかない。（人の紹介は保健所、お金は市町村）
- ・移譲に向け他市町村との話し合いで「支援してほしい」といわれても、その内容はマンパワーがほしいというのが主。
*今までも市町村から保健所へ積極的に来ることはなかったが、これまでは保健所がマンパワー的でも支援に行っていたため、その時に相談があった。これが無くなったため、市町村からの相談が入らなくなった。
- ・保健所間の専門的職員（PT、ST等の専門職員、資格でなく「あの人は～に長けている」という人など）の貸し借りができるとうい。

3. 今後、保健所の母子保健活動で実施したいと思う事業

障害児及び小児慢性特定疾患児への取り組みと救急医療体制

1. 障害児が普通に暮らせる環境を作る

(学べる・学校に行ける・就職する)

- 医療機関にフォローされているようでない児(親も)のための地域での支援体制を作る。
- 小児慢性特定疾患児(特に悪性新生物)等その親の会を作り支援する。(静岡県もと清水保健所)
- 小慢児の親の会や小慢児の子ども同士のつどい。(愛媛県宇和島保健所)
- 市町村における1次スクリーニング機能を高める。…チェック機能:自己実施する場合。制度管理:医療機関委託する場合。
- 2次フォロー機関としての機能を充実する。
- 発達に問題がある児のフォローを確立する。…親も子も自立できるまで。
- 障害児を持つ母親が仲間を作り、気持ちを表現できたり交換できる場をもつこと。
- 療育教室に参加している子の父母と、もっと話をしたい。(子育て父母自身の生き方の支援など。一方的な教室でなく)
- 教育委員会と一緒に就学時のケース検討を行う。
- 健診でフォローされる子ども達の診療システム作り。(学校も含めて)
- 保健所などと連携をとり、医療事業をやっていきたい。
- 保健所で毎週、障害児療育(OTやSTも参加)をしたい。
- 医療システムのネットワークづくり。(市町村、医療機関、領域機関、保健所)
- 病院、保健所、リハビリ施設と連携をとりながら、未熟児の成長をみんなで支えていきたい。(支える体制をつくりたい)

2. 小児周産期の救急医療体制の整備(安心して救急医療が受けられる体制づくり、夜間・休日)

- 安心して母子入院できる病棟整備。(家庭的雰囲気。個室の完備。遊び部屋の確保)
- 極小未熟児のための周産期センター、市町村、保健所、児相との連携。
- 極小未熟児の母親同士の集い。
- 健診で専門医によるスクリーニングが行えるようにスタッフを確保する。
- 過疎地に産科と小児科の医師を呼ぶ。
- 医療機関の精度管理。

- 歯科保険での乳歯のフッ素塗布。かむかむ教室(咀嚼について)。就学児のぴかぴか教室。(永久歯についての指導教育)(愛媛県大州保健所)
- 精神疾患をもつ父母と一緒に暮らす子ども達への支援。(業務分担制となるとかかりが別々になり、対応にばらつきが出てくる)
- 虐待におけるネットワークを作りたい。(育児・医療機関・市町村・保健所)(愛知県知多保健所)
- 虐待予防。楽しく自信を持って子育てができるような支援。(東京都中板保健所)
- 児童虐待への対応。

子育て支援

1. 妊娠・出産

- 不妊症で悩む人たちへの支援。不妊治療の悩み相談。(新潟県新津保健所)
- 更年期婦人への健康クラス。(新潟県新津保健所)
- マタニティーブルーの対応。妊娠時からの気になるケースのフォロー。
- 外国人母子の支援。(山形県新庄保健所、庄内保健所我孫子先生)
- 出生率が低いのは住宅の問題。子育ても楽しくないかも、(自分の時間がなくなるなど)これをどうしたらよいかを考える会をつくる。(人工は確実に減ると言うことをどう捕らえるか)

2. 育児

- 外国人親子の仲間づくり教室。
- 子育てサークルと一緒に公園の遊具の点検や歩道などの点検をする。
- 子どもが安心して遊べる公園整備。(道路歩道整備、夜でも安心して歩ける道)
- 事故予防の知識について普及させたい。
- 子育てに望ましい住宅を考える機会を作りたい。
- 子どもの成長にあわせた(障害児も含めた)住宅改善。(部屋の工夫、安全なベランダ…外に転がりでない)
- ノーマライゼーション建築部との協同で建物のつくり直し。(母子でも使いやすい道路、建物)
- 子育て支援事業の一環としてベビーシッター斡旋事業をしたい。
- 子育ての援助者として誰でも協力できる体制作り。(近所の人も気軽に子どもを預かれる関係作り)
- 祖父母が育児に参加して、家族や地域で育児を支援できるような知識や自信を持つこと。

- 母乳育児のネットワークづくりをしたい。(市町村・医療機関・開業助産婦・保健所)(福岡県久留米保健所)
- 母乳育児への援助。(マンマママッサージの提供)
- 母親と一緒にダイオキシンや ATL と母乳栄養のことを一緒に考えたい。
- 病児保育の充実。
- 地域の学童保育の充実。
- 育児支援をしたい。(育児グループへのサポート、育児グループに参加出来ない人へのサポート)
- 新しい子育て情報を子育て新聞として出したい。
- 父親と一緒に父親理科クラブを結成して子どもに土日学級をする。
- 小学生を持つ親のサークルをつくる。
- 子育てをしている父母への心理的メンタル支援。
- 市町村の保健婦と一緒に「双子ちゃんグループ」をつくりたい。
- 子育て中のお母さんの育児サークル。
- 保育園職員と育児支援について話し合いたい。
- 子育て日記のつけかた教室。(アクティブに育児に取り組もう)
- 老人が昔の遊びを子ども達に教える教室。
- 子どものおもちゃライブラリーの設置。
- 子育てにとっても良いと思われる「アイデアおもちゃ大賞」の応募を試みる。(手作り)
- 24 時間、(でなくても)せめて夜も相談を受けたい。(夜でなければ相談できない人もいる)

3. 思春期 学校教育との連携

- 食品衛生の職員と協力して、食育事業を行う。
- 小学校の PTA と一緒に小児期～の生活習慣病予防のための体験学習。
- 小・中学校で禁煙教育をしたい。
- 中・高校生(小学生でも良い)と少人数で(一人一人の表情を見られるくらいの)ディスカッションをしながらの健康教育。
- 中・高校生への(男女)育児教育。
- 学校保健と連携して精神保健やエイズに取り組むこと。
- 登校拒否児が集まれる場所を作りたい。(愛知県知多保健所、岐阜県関保健所)
- 子ども心の発達相談。(小・中高校生の不登校、思春期問題等の相談窓口)
- “大人になるってどんなこと?”というような子ども達が、楽しく大人になるための学習が出来る。
- 未来の自分の家族を想像しながら行う、シミュレーション学習をする。

- 思春期のネットワークづくり。(学校・医療機関・市町村・保健所)(福岡県粕屋保健所)
- 保育園・小学校・中学校・保健所・市町村などの行政で子育てネットワークをつくりたい。
- 小学校に行って性教育をしたい。
- 思春期保健では、もっと学校に入り込んでいってもいいとおもう。(栄養一新潟県村上)
- 過食症、拒食症の子ども達のケア・支援。
- 赤ちゃん人形を持たせて子育ての実体験をさせる。(子育て実習)
- 学校保健との連携、ネットワークづくり。
- 学校ともっと連携したい。(障害児・小慢・心・いろいろ学校で留まっているものが多いのではないか)
- 青年期の子供を持つ親のための子離れ教室。

夫婦の性・暴力

- セックスレス夫婦への相談窓口。
- 家庭内暴力に対する介入。
- 既婚者の避妊相談。40歳以上の中絶が多い現状がある。定用量ピルの必要性について等、産婦人科との連携を取っていく。

基盤整備

- 保健所間で業務の応援をする。
- 市町村職員との人事交流をしたい。
- 保健所内の他課、他職種と意見交換や協力をして事業を企画する。
- 関係機関と職員同士の連絡しか取れていない。機関同志としての体験整備が必要。(病院・医療機関・児相など)
- 調査研究機能を強化したい。
- モデル事業を普遍化するだけの力量を身につける。

危機管理

- 災害に備えておむつやミルク・離乳食の備蓄をする。
- PTSDに関する相談事業

市町村との協働（企画・実施・評価）

- 地域の子育て支援。市町村と一緒に企画していきたい。
- 保健所と市町村が母子を取り巻く環境や社会をどのようにしたいか話し合うこと。
- 市町村の行う会議に保健所が参加し続ける。（沖縄県八重山保健所・鳥取県郡家保健所）
- 過疎地域（年間出生 5 人以下）における母子保健計画の作り方を考えたい。（高齢化が進んでいると、村のトップの方自体が母子に力をいれようとしていない）
- 市町村一緒に母子保健計画の評価をしていきたい。
- 母子保健計画の評価と見直し。
- 母子保健計画の経済評価をしたい。
- 市町村母子保健活動の評価指数を提案する。
- 母子保健の指標など、データの収集・生理・分析などを提示できるようにしたい。
- 3 児視聴覚健診の評価。（小 1 への調査）（岐阜県可茂保健所）
- 乳幼児健診は保健ではなく医療分野になる模様。保健も情報の取り方をどうするか検討する。
- 市町村への積極的支援を行う。

厚生省心身障害研究
保健所における母子保険活動のあり方に関する研究
平成10年度研究報告書
主任研究者 宮里 和子

印刷／株式会社 国分